

# MASUKI INFO. DESK FIGHTING REPORT

関西より発信

No. 221  
【発行・編集】  
MASUKI 情報デスク  
増木直美  
大阪府豊中市上新田2-6-25-113  
TEL 090-3710-4815  
FAX 06-6835-0974  
http://mid.parfe.jp/  
mid@jewel.ocn.ne.jp

● 祝祭日には国旗を掲げましょう。卒業式には「仰げば尊し」を！

## R2-1-24 世田谷区立山崎小学校 ヘヴニース、初の学校ミッション



### HEAVENESE

HEAVENESE初の学校公演無事に終わりました。朝7:30から仕込みで乗り込み、総勢30名の一座で行ってまいりました。

控え室は「家庭科室」、会場は体育館。音響、映像、照明、スモークマシンなど、電源が落ちない程度のギリギリの機材を持ち込みライブ会場風に仕上げました。

「ここまでやる！こんな学校公演は見たことがない！」と、来賓でいられていた学校公演を数多くこなしてきた音楽家が絶賛してくれました。

山崎小学校には、伝統工芸室というのがあります。そこではなんと、和紙を作っているの

です。学校の裏庭の楮の木を栽培しているんですね。木から和紙をつくり、その和紙が自分の卒業証書になって帰ってくるという素晴らしい学校です。

また、山崎太鼓という和太鼓も代々受け継がれています。そんな学校だからこそ実現した公演でもありました。午後1:20に開演。

対象は全校生徒とご父兄。副校長先生の司会によって始まり、会場が真っ暗になった瞬間、子供達の甲高い悲鳴のような興奮が伝わってきて、「おお」と気合が入りましたね。いけるぞーと。

タイトルは「空飛ぶ日本人」ライト兄弟が世界で初めて飛行機を作ったのではなく、江戸時代の浮田幸吉だった！という話をの〇分の演目に濃縮して上演しました。テーマは、できると信じる心と、日本人が古来から受け継いできた生み出す力、産霊(むすひ)。

君の中にもある！奇跡を起こす力が。誰がなんと言おうと、君たちは奇跡を生み出すことができる。素晴らしい未来を作り出すことができる。あっと驚く発見をすることが出来る！君たちこそ、時代をつくり不可能を可能にする神の傑作なんだ！と座長Mareが熱くメッセージ！

コントでは、人気アニメ「鬼滅の刃」のキャラクターも登場し新ネタを披露。おご父兄向けのギャグも、ところどころに盛り込んだコントコーナーでしたが、子供達の反応がとにかくすごかった。

〇〇分ぴったりで終演すると、体育館に鳴り響くアンコールの拍手。4年生まではここで終了の予定だったので、

アンコールをしいいものかと躊躇していると、学校サイドから「やってください」との声。メンバー再びステージに戻り、アンコール曲を演奏して公演を終わりました。

そこで、ご父兄と4年生までは退場し、5、6年生むけのワークショップ。メンバーや楽器紹介のあと、MareがHEAVENESEの海外公演活動の中で

体験したことの中からどうしても伝えたいことを渾身のメッセージ！子供たちは真剣に聞き入ってくれました。

ワークショップが終わると、この学校の6年生に受け継がれてきた「山崎太鼓」を6年生が是非きいてほしい！と申し出てくれて、彼らの素晴らしい演奏を満喫しました。山崎太鼓というのは、山崎小学校が受け継いできている伝統で、和太鼓をの年生全員で演奏するというものです。

曲もスタイルは、かつてフコの和太鼓奏者に教えてもらったものを、今はの年生が先生なしで5年生におしえ、受け継いでいくというスタイルで今年が6代山崎太鼓。いやあびく

「M情報」は連合艦隊です。その旗艦が「NPO 法人百人の会（理事長、辻淳子大阪市会議員）」。2番艦「英霊を被告にして委員会」、3番艦「憲法一条の会」。4番艦「救う会大阪」。5番艦「台湾籍日本人支援の会」これらに頂だいたご意見等をM情報の責任で発信。

《M情報活動報告》編集指針：政治や国際問題、市民活動に全く無縁だった一般の人達に、「おばちゃん語」で政治を届ける

りました。長い曲なのですが、生徒たちが一体となって太鼓の演奏をしてくれる姿に感無量。

ともかくにも、公立学校でこんなことが実現するのか！と多くの方が驚き、歴史を作った「日」となりました。隣の中学校の校長先生も見に来てくださっていて、是非、うちの学校にも日本人の素晴らしさを伝えにきてください！と声をかけていただきました。

ただ、演奏をするのではなく、日本人としての健全な自尊心を育むためにメッセージを届けるエデュテイメントこそ、HEAVENESSEのミッション。また一つ新しい扉が開かれた嬉しい一日となりました。これも、ひとえに皆様のご支援のおかげです。仕事ぬきにかけてくれた舞台監督にも感謝！これからも、教育現場でHEAVENESSEを届けられるように何卒お力そえをお願いいたします。

## 学校で「ヘヴニーズ(天国民)

### 百人の会理事 空花正人

一般には「ゴスペル」という黒人音楽を演奏するグループならばバンドと紹介されるものであるが、そのジャズ・ゴスペル・バンド「ヘヴニーズ」という集団には彼等なりのこだわりがある。ちなみに「ヘヴニーズ」

(HEAVENESSE)は、HEAVENとJAPANESEの合成語である。天国に通じる道を信じて進む日本人たち(天国民)。彼等の用いる楽器は洋楽器は勿論であり、演奏する楽曲はリズム

とビートの利いた「ゴスペル調」であるが、和太鼓や琴、尺八に津軽三味線をふんだんに取り入れ、その幅の広がった多彩な演舞はまさしく神前に捧げる神楽であり、奉納である。そこで彼等は自分たちを声高らかに、音楽一座「ヘヴニーズ」と主張する。

ヘヴニーズの活動は、アメリカ初め海外で好評を博している。ヘヴニーズの音楽性は、思想、宗教、国家の境界を超えた万人の魂に直接働きかける力を持っている。一座のこの高い音楽性とステージから語りかける主宰者座長「マシ」と石井希尚(まれひさ)氏の巧みな話術は、民間親善使節団のポテンシャルありとして外務省にも認識されている。外務省は、係争地であるイスラエル、そして隣国同士で争っているエチオピアとエリトリアなどにおいての演奏会までも後押ししてくれた。政治の世界では争っていても、人間同士はサブカルチャーや音楽などで交流できるし、しなければならぬ。当初は不安で仕方なかった海外公演ではあったが、行ってみたいところ、現地の人々から「お前達は中国人ではないのか、よくぞ日本人が来てくれた、日本人はのODOODOODO」と、自虐的日本人が聞いたら目を剥くようなことを言われたという。そうした海外での活動実績を成果に、国内活動も盛んになり、外務省後援で各国駐日大使館・領事館関係者が多数鑑賞に来る。最近「ゴスペル」とは縁の遠かった中高年層にも熱心なファンが現れた。何を隠そうその中高年者の一人が筆者である。ほかに保守系団体の古参会員たちもいる。中には

東京での舞台にはるばる大阪から駆けつける夫婦もいる。高名なソプラノ歌手もいる。マシ座長の演説の旨さに惹かれたのだ。

マシさんの本業は牧師である。30歳の頃カリフォルニア州認定の牧師の資格を得た。結婚式の司祭、結婚前の人生相談・プリマレタルカウンセリング協会の仕事もこなす。結婚関係の本を数多く出すベストセラー作家でもある。日常ライブ演奏拠点の「キックバック・カフェ」では毎週日曜日開催の「ゴスペル・ブランチ」に集まる若者たちに人生のすばらしさを語る教育者なのである。重要な点は、キリスト教の教義を伝道するのではなく、聖書に書かれていることをありのままに語り、そこに書かれていることがまさしく日本精神、大和魂、日本文化とながっていることを説き明かしてくれるのである。

さて前置きが長くなったが、ここで紹介したいことは、このヘヴニーズの公演が、公立学校の招聘を受けて「特別授業」として実現したことである。そもそもヘヴニーズの活動方針は、教育とエンターテインメントを合成した「エデュテイメント」であるから、聴いて観て欲しい対象は子供である。

次代を担う子供たちこそがヘヴニーズの根強いファンなのである。教養人が好む小難しい歴史的事象ではなく、教科書には書かれない日本人や黒人達の頑張っているさまを巧みな音楽に乗せて語りかければ、無邪気で感受性の強い子供たちには見る見るしみこんでいく。むやみに自尊心を植えつけるとか、ナシヨ

ナリズムを煽る危険な洗脳だと、自虐的歴史認識に凝り固まった頭の古い大人には映るかもしれない。そのような臆病な僻んだ見方を木っ端みじんに吹き飛ばすのがヘヴニーズの演舞であり、まさしく教育的交流なのである。実は後日キックバック・カフェでマシに直接取材して伺ったところ、普段から左翼的だった人が、ヘヴニーズの舞台を見て、ころりと改心したというエピソードもある。

世田谷区立山崎小学校略して山小の体育館を演奏会場に得て、ついに令和2年1月24日(金曜日)午後1時半から約2時間、ヘヴニーズが在校生と音楽を交歓しあった。もともとこの山小は和太鼓を学習に組み入れており、そうした素地があった校長先生以下学校全体がこのヘヴニーズの公演を学校に呼び込んだのだ。2ヶ月前の昨年11月22日、東京日本橋の三井ホールで開かれた演奏会場にこの小学校の校長先生(小池慎一氏)がいた。圧倒的な迫力に感銘を受け、是非この音楽一座を生徒達に見せたいと思い立ち、学校全体行事として企画したのである。実は筆者は、この世田谷区にはある種偏見を持っていた。区長の日ごろの政治的主張によれば、こうした「右寄り授業」は何かしら制約をかけるとか、嗅ぎつけたリベラル左派が妨害に出るのではないかと思ひ、いざとなれば体を張って守ろうか、と腹を決めていた。ところがなんと校長先生はまるで何事もなかったように太っ腹で、この日の公演を進めていたのであ

る。これも後から聞いたのであるが、元は、元社民党議員で現世田谷区長の保坂展人氏とは若いころ、苦勞を共有する知人であって、文部省の官僚的教育に反発して独自の教育手法に取り組んだ間柄であった。したがって保坂氏は今や左翼活動家であっても、その動機はあくまでも権威主義的教育に対するレジスタンスから発したようである。マシやヘヴニースのことを知れば、

保坂氏といえども少しは柔軟な態度に出る可能性がある。この世田谷の学校でヘヴニース特別授業なる公演が成功したのは、まさに天祐であり、閉塞的保守運動にとつての希望ではないかと感じた次第である。

さてこの日の演目は「空を飛んだ日本人」である。世界で初めて空を飛んだ人は誰か、という座長マシの問いかけに皆は「ライト兄弟」と答える。リリエントールが航空力学の父とも言われる。しかしそれは間違いだといなされる。実は江戸時代中期、日本人が初飛行し、真の航空工学の父であると。その名は浮田幸吉。備前国の表具屋で腕を磨いた男、研究熱心でどうしたら近所のお寺の鳩のように空を飛べるかと考え、鳩の羽の構造や飛び方を研究し、羽ばたき装置を作り上げた。周りが止めるのも聞かず、お宮の裏の高低差60メートルもある崖の頂きから一気に飛び降りた。案の定まさかさまに墜落し、骨折した。普通ならそれで止める所を浮田幸吉は、今度は空高く舞う鳥に着目した。羽ばたかないで悠然と空を舞う今では常識である滑空機

の原型を工作した。航空力学に通う上反角もつけた。滑空の場所を選んだのは川にかかる橋。墜落しても下は水。山から吹き降ろす良い風の出るのをひたすら待ち、ついに橋の欄干から舞い降りた。下の方で見守る老人達は、天狗が出たと叫ぶ。見事10秒間、30メートルの初飛行に成功した。これがリリエントールより100年以上も前、世界初の空を飛んだ人類である。

浮田幸吉のこの諦めない強さ、不屈の精神、これは何処から来ているのか。ものづくり大国日本を実現させたのは、人がやらないことをやる進取の精神である。持続する努力である。江戸時代は260年間も平和で戦争が無かった。往來を歩く犬猫などの動物にまで人力車は道を譲るほどの動物天国日本。これは世界でも希なこと。

江戸時代の子供たちは寺子屋で学び、訪れた外国人は悉く日本人の識字率の高さを知る。そして古事記には3人の神が世界を作ったと書かれている。産霊の神、むすび、結び である。和をもつて尊しと為す精神、これぞ大和魂ではないか。我々が誇っていることである。こうした話を子供たちは真剣に且つ楽しく聴き続けた。マシのしかける「よくよ」の掛け声に、初めはもじもじしていた子供等が、「いよよ」と応じて体育館内はますます盛り上がった。江戸の寺子屋のコントなども織り交ぜ、観衆を飽きさせない。演舞が終わっても児童らの「アンコール」の大声援が止まず、授業時間延長にならないかと気にするマシの心配は、校長先生のOMSサインで一

気に吹き飛ばされた。舞台下にあらかじめ児童が使うために並べられていた数台の和太鼓全てを加え、壇上の大太鼓ともどもヘヴニース一座全員で、息をつかせぬ、一糸乱れぬ連打で華々しく演舞を終えた。そして全校児童との話し合いの時間になった。児童からのいくつかの質問のなかで最もよかったものは、「ヘヴニースとは何なのか」であって、それにマシが「エデュテインメントを通じて子供たちが、山崎小の生徒たちが胸を張り、上を向いて歩いていくようにしたい」。

山崎小には伝統工芸室と呼ばれる工房があり、手漉き和紙を皆が作り、それが一枚一枚、一人一人の卒業証書となっている。自分の手で物を作り、また言葉が通じない世界中何処でも共感できる太鼓が打てる。すばらしいことだよ」と丁寧に対応した。終始和気藹々な雰囲気。余韻を持って下級生が退出し、上級生だけがその場に残った。そうして手際よく体育館中央に和太鼓多数が並べられて、児童だけによる和太鼓演奏が始まった。これがこの学校を有名にした「山崎太鼓」なのである。並んだ太鼓を横に踊るように移動して順に打ち鳴らしていく演舞を、ヘヴニース一座はその正面に腰掛けて見守った。

左系に漏れると潰されるという懸念から、事前公開をせず、増木、山下、空花等でこそっと行って鑑賞してきまして。感動の一語です。マシ座長の話は、相手に合わせ実に演題が適切。今の子供達に一番教えないといけないこと。夢、希望、そして日本。日本人は外国へ行く

と尊敬される。アフリカを旅した時、Good leader」と言われた。それは2000年一系の天皇が存在することに對しての敬意である。詳細は空花氏の報告を。音楽演奏になると、お母さん方が思わず青春。

我々教育に携わる者として、小学校1〜4年で1時間、5、6の年で2時間、子供たちの気持ちを引き付けるのは至難の技。普通は欠伸をしたり、ざわざわ話を始める。違う。子供たちがノリノリ。まずそのことに感動！人參嫌いの子供に、お母さんが人參をすりおろし、カレーに混ぜて食べさせす手法。生徒たちの山崎太鼓の演奏。最初の3秒で感動。プロ集団のヘヴニースもたじたじ。揃っている。と言うより、根性が入ってる。聞いた瞬間そう感じました。また寿命の延びた一日でありました。

#### ◇百人の会は『天才』集団だ！

公演が終わったの帰途「それじゃあレポートお願いしますね。」と空花さんにさらっと言った。「忙しい」とか「きちっと覚えてない」とか逃げ腰。「急がないから」と言って、私は言い逃げ。ところがたった今、空花氏からレポートが出来上がってきた。氏が一晩でこれだけの文章を書かれた。ペンを走らせたのはヘヴニースの素晴らしさを、1秒でも早く皆に伝えたいという思いから。私は空花氏を誇りたい百人の会は『天才』集団だ！

追、実は空花氏、元日航の社員で航空力学の専門家、ナノデス！ マスキ

# 議会質問・議員・自治体等からの報告

**山口県議会令和元年6月定例会**  
 6月18日 橋本尚理

◆(橋本尚理君) それでは、気分を

改めまして、私は自由民主党新生会の橋本尚理でございます。改選後、初めての定例会ですので、会派を代表しまして一般質問をさせていただきます。

皆様御承知のとおり、去る四月三十日に天皇が実に約二百年ぶりとなる生前譲位をなされ、三十年間に及んだ平成の時代が終わりを告げ、翌五月一日に皇太子殿下が百二十六代天皇に御即位なされ、新しく令和の時代が始まりました。

まずもって、上皇上皇后陛下におかれましては、常に国民に大御心を寄せられ、国民に寄り添い、苦楽をともにされ、私どもを慈しみいただきました



た。日本国民の一人として心よりの感謝を申し上げ、どうぞ今後はお健やかで穏やかな日々をお過ごしいただきますようお願いをさせていただきます。

そこで、御代替わりに当たり、我が国の歴史を少しひもといてみます。

我が国日本は、今から二千六百七十九年前、初代神武天皇が現在の奈良原橿原の地において、祖先、神々を敬い、世界が一つの家族のように仲むつまじく暮らそう、いわゆる八紘一宇の詔を発せられ、建国したのであります。よって、ことしが皇紀二六七九年となり、キリストの誕生よりも六百六十年も前に、我が国日本は誕生したのであります。

ちなみに、西暦に六百六十を足すと皇紀になりますので、覚えておいていただきたいと思えます。

以来、百二十六代今上天皇に至るまで、男系一系で受け継がれてきた、世界で最も長い歴史を持つ国であります。我が国に続き歴史の古い国アンマークでさえまだ千三百年余り、フランスで千年余り、タイで八百年足らず、イギリスは三百年余り、アメリカは二百四十三年、これは徳川幕府よりも歴史は短いのであります。中国、韓国は七十二年、ロシアに至っては二十八年の歴史しか有していないのであります。

さらに、国体はと見てみますと、皇帝、国王、女王を有する君主制と大統領の共和制に二分されますが、人口五千万以上

の国で現在も君主制を維持している国は、イギリスの女王(クイーン)、タイの国王(キング)、そして我が日本の天皇(エンペラー)、この三カ国しか現存しないのであります。

世界で最も長い歴史を持ち、万世一系の天皇を君主とする我が国日本は、世界からは、奇跡の国、地球上で最も高貴な国と見られ、尊敬されている国、国民なのであります。

しかしながら、残念なことに、このことを一番知らない国民が日本人なのであります。これも悲しいかな事実であります。さて、いよいよ新しい令和の時代が始まりました。平成の時代から抱えた国家滅亡に通じる大きな三つの課題、人口減少、産業の空洞化、皇統の安定維持という難題を抱えての前途多難な船出であります。

私たちは、令和の時代こそ八紘一宇の精神に立ち返り、世界から称賛される日本国民の英知を集結し、新帝陛下のもと、安倍総理を先頭に、明るい未来を切り開いていかなければなりません。

そのためには、まずは憲法改正であります。七月の参議院議員選挙における自民党の公約の一つは、国会で憲法改正の議論を始めるだそうであります。戦後、GHQによって制定された現憲法を日本国民みずからの手で改正することこそ、日本精神の回復にほかならないのであります。

それでは、令和の時代が、文字どおり麗しく平和な時代となりますようにお願いがままして、質問に入らせていただきます。

次に、山口県への誇りと愛着を育む人づくりについてお尋ねをいたします。

先月二十二日、県では、新たな時代を見据え、山口県ならではの人づくりの推進方針の策定と体制整備に関する会議をスタートされました。中身を拝見すると、歴史に学ぶ山口県の人づくりが論点の一つとして示され、同時に提示された今後の人づくりの推進方法のたたき台において、ふるさと山口への誇りと愛着を高める取り組みが掲げられております。

昨年六月に国から出されました提言や、先月開催された教育再生実行会議の提言が、主に技術革新への対応を念頭に置いた内容となっているのに対し、本県の人づくり推進方針に、山口県人としての誇りと愛着を高めることを盛り込むとされていることは大いに評価するところであります。さて、我が国においては、戦後、民主主義による誤った個の尊重、いわゆる自分勝手至上主義を殊さら訴え続けたツケが回り、国家というものに対する意識の欠如を招いてしまった結果、愛国心という言葉自体がタブーとなり、少なくとも堂々とこれを訴える人はほとんど見られません。

私が平成十一年に県議に初当選し、この議場で愛国心を訴えましたところ、多くの先輩議員から山口県議会に右翼が来たとかゆめされたことをよく記憶しております。しかしながら、一方で、私たち若国

市民が日常的に接する米国人を初め世界のほとんどの国では、自然に愛国心を表明することが至極当たり前のことであります。愛国心がないと平気で答える人のほうが奇異な目で見られ、信頼を失ってしまうことを知っておくべきであります。

また、この愛国心という言葉が自然と出てこない原因として、冒頭でも申し上げましたが、我々日本人が日本のことを一番知らないことなのであります。誰も、知らないものを愛することはできません。

何力国かの人々が集まるパーティーの席では、大概それぞれのお国自慢となり、自国の文化や伝統、歴史について語ったり、また相手の国のことについて質問するのが常であります。その場で自国の歴史や文化を語れないと、無教養な人とみなされてしまうのであります。

私は、愛国心を持つことこそが世界各国が共栄する道であり、自国を愛する心があつてこそ他の国の人々の愛国心が理解でき、他の国を尊重することにもつながるものだと思っております。そして、このことは、まさにふるさとへの誇りと愛着を育むことに相通するものだと思えるのであります。

令和という新しい時代を迎え、今後のグローバル社会で活躍する人材を育成する上において、伝統、文化を尊重する心とふるさと山口を愛する愛郷心を養い、山口県人としてのアイデンティティーを確立していく必要があると考えますが、山口県ならではの人づく

りの推進方針の策定を今後どのように進められていけるのか、御所見をお伺いいたします。

終わりに当たり、一言申し上げさせていただきます。

私は、自衛官募集相談員の委嘱を受け、二十年近く、自衛官の募集に協力してまいりました。そこで、さきの二月定例会において、自衛官の募集のあり方について質問をさせていただいたところであります。

知事から、「自衛隊は、我が国の平和維持という崇高な任務を遂行される一方で、国際貢献や大規模災害時の救援活動など、さまざまな分野での国民の安心・安全に大きな役割を果たしています。本県においても、昨年の七月豪雨災害において、若国市で行方不明者の捜索に尽力をいただくとともに、十月の大島大橋の損傷事故では、約二週間にわたり、周防大島町での給水活動を支えていただきました。

こうした中、少子化の進展のほか、近年の好調な景気・雇用情勢などにより、自衛官の募集環境は厳しい状況にあるとお聞きしています。県としては、自衛隊や県内市町と連携し、自衛隊が主催する募集連絡会議への参加やポスター等の広報資料の作成・配布など、自衛官募集への協力を行っているところです。

今後とも、県内の自衛隊や地方協力本部を初め、市町や関係機関との連携を図りながら、自衛官の募集について適切に対応してまいります」と、温かく御理解のある御答弁をいただきました。

その後、下関市や長門市など、対象者の閲覧に善処いただける自治体が出てくるなど、大変喜ばしい結果が出てきております。

知事も申されましたが、現在自衛官の募集環境は極めて厳しい状況にありま

す。募集予定人員に対し、一昨年で千九百名、昨年度においては三千五百名を超える不足が生じているのであります。三千五百名という数は、私たち中国五県を防衛、警備し、災害支援をしていた

だいております陸上自衛隊第十三旅団の総員に匹敵する人員であります。たった一年の自衛官の募集の不足で、中国五県を守っていただく十三旅団がなくなってしまうんです。想像しただけでも、末恐ろしい現状であります。

どうか、いろいろなアイデアやアイデアをお持ちの方もいらっしゃるとは存じますが、我が国の独立と平和、そして私たちの国民の生命と財産をまさに命をかけて守っていただく自衛官の募集に、全ての日本国民が協力をさせていただきます。うお願いを申し上げます。私

の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。(拍手)

◎総合企画部長(北村敏克君) 山口県への誇りと愛着を育む人づくりについてのお尋ねにお答えします。

県では、明治百五十年を契機として、将来の山口県を担う若者を育成するため、若者がふるさと山口に誇りを持ち、先人たちの志と行動力を学び、それを見ずからのものとするための取り組みを進めてまいりました。

この取り組みに加え、ソサエティ五・〇の到来など、時代の変化に対応した人づくりを進めるため、今年度において、今後、県が取り組むべき施策の推進方針を策定することとしてまいります。

また、策定に当たって、経済界や大学等、県内の有識者で構成する新たな時代の人づくり会議を設置し、先月開催した第一回の会議において、今後の検討の方向性について議論を行ったところ

です。

今後は、本県の将来を担う人材を育成するために必要となる取り組みとして、ふるさと山口への誇りと愛着を高め、山口県人としてのアイデンティティーを確立する取り組みについて検討を行ってまいります。

また、新たな価値を創造する力を育てるため、地域や社会が抱える課題を発見し解決する力や、生涯を通じてみずから学び続け、主体的にキャリアを構築する力、グローバルな視野、AI等の技術を活用する力などの育成について検討を進めます。

加えて、児童や生徒の志や可能性を實現し、地域や時代のニーズにも対応した教育環境の整備や、こうした取り組みを進めていく体制についても検討を行います。

県としては、教育再生実行会議や中央教育審議会等、国におけるさまざまな議論も踏まえ、また全国で活躍されている有識者からの御意見をいただきながら、次代を担う人づくりの推進方針を策定してまいります。

# 各位。各団体等からの報告。ご意見

## いじめは必ず起きている

川内時男 元徳島県公立中学校校長  
R2-1-9

1、「皆さん、力を貸してください！」  
いじめ、不登校、引きこもり・・・現代教育は瀕死の状態です。そして一向に改善の兆しが見えません。陰湿ないじめによって子供が自殺しても世間には以前のように騒がなくなりました。子供の自殺程度では驚かなくなつたと言ふことでしょうか。恐ろしい社会になつたものです。学校で何か事件が起ればマスコミをはじめ、世間の人たちは学校や教師を責め立てますが、(そうされても仕方のない教師もいますが)、教師は文科省や教育委員会の方針にしたがってやっているだけです。基本的には先生達には責任はありません。責任を負うべきは評論家取りで無責任な論評を垂れ流す教育学者と、それをもてはやすマスコミと、その声に追随して浮世離れた教育を進めている文科省です。先生達も大変です。あれもするな、これもするなと、何もできないほどに身を縛られ、そして子供が問題を起すこと「指導ができていない」と非難されるのです。何という理不尽さ、お気の毒に・・・と先生達に同情したい気持ちになります。が、・・・しかし

し私はあえて厳しいことを言います。職場ですから、ある程度の理不尽があるのは当たり前です。教育現場だけが理想的環境を求めるのはわがままといふものです。周囲を見渡せば私たち教師は、いじめや不登校などの問題を何ひとつ解決できていないのです。そのことを脇に置いて職場の不平・不満を言つたりすれば、それこそ世間から「甘ったれるな！」と叱られることでしょうか。  
先ほど「先生達に責任はない」と言いましたが、私は別の意味で「先生にも責任はある」と思っています。その責任とは何でしょうか。今の教育の何が間違っているのか(何も間違っていないというのなら、いじめで子供が自殺することなどないはずだからです)を深く考え、仲間と議論し、教育現場から文科省や社会に向けて声を上げることです。しかし先生達はこれをやっていません。責任を問われるべきはこの点です。  
しかし、ただでさえ忙しい教育現場です。だから、そんなことを考えるゆとりも気力もないでしょう。また声を上げると言つても研究会などではなかなか言えるものではありません。そこで私が世間に向けて声を上げることになります。私は教師生活42年、離島僻地、山間僻地、小規模、中規模、大規模校、東南アジア、南米・中米の日本人学校など・・・経験の広さでは誰にも引けを取りません。そして現役を退いた後もこのことを考

え続けてきた私です。教師人生の集大成としての教育論を世間に向けて発信することになります。

これを読んで下さっている皆さんにお願いです。これから私は教育についての自分の考えを定期的に発信することになります。皆さんにお願いしたいのは、私のこのメッセージを、世間に広く拡散してほしいのです。これまで政治家に働きかけたり、各地で講演したり、首相官邸前でピラを配つたりしましたが、今一つ成果が上がりません。社会に広く訴えるには皆さんにお願いして拡散してもらうのが一番なのです。フェイスブックを通じてお友達や仲間にも広めて下さい(シェアして下さい)。ご協力をお願いします。

2、いじめは必ず起ころ。(拡散希望！)  
今回はコメントが少々長すぎました。今回からは焦点を絞って手短かにお話しすることになります。

私がこれから言いたいことを一口に言えば「教育に科学を取り入れて近代化せよ」と言つこと。例えばいじめ問題です。結論を先に言いますと、いじめをなくすことは絶対にできません。なぜなら子供は霊長類以下科という「生き物」の子だからです。こう言つとある人達から

「お前は人間の子供を犬や猿と同等に考えるのか」と問い詰められます。そうです。その通りです。子供は人間に成長する途中の段階ですから、人間になるまでは犬や猿と同じなのです。決して子供を侮辱しているではありません。これ

は動物行動学、脳科学の視点からも明らかなのです。しかしマスコミや教育学者達はそうは考えません。「子供は純真な心を持ち」、「友達と手を取り合つて・・・」、「何事も話し合いで解決し・・・」などのファンタジーに酔っているのです。現代教育はこの点で出発点から間違えています。これがそもその間違いなのです。私が「教育に科学を・・・」と言っているのはこのためです。(以下次号)

**「神様が見てはるよ」  
現代の困りごとを解決  
する魔法の言葉(2)**  
京都北山細野の神主 中村重行  
2020年01月31日

昔もそうだったが特に最近では子供が親の言つことや学校の先生の言つ事を聞かなくなりましたね。子供の一生で一番大切なのは生まれてから小学校に入るまでです。この間の親の教育(躾け)がその子供の一生を決めてしまつと私は思います。社会構造が変わつたと言えは変わったのは確かです。だけど男女が結婚して子供を作るのは変わりません。大きく変わったのは親が幼児の教育(躾け)を放棄した事だと私は思っています。特に母親の役目は大切だと思つています。

戦後産業の発展に人材が必要になり農山村から働き手を都会に集め地方を過疎化を通り越して壊滅状態にしてみました。それでも足らずに女性(母親)の仕事への進出を男女平等という甘言で掻き集めて家庭の崩壊の元を作りました。まだ足らずに今はグローバル化と言う都合のいい言葉と移民という労働奴隷を世界から掻き集めようとしています。

世界の歴史を見てもわかるように移民の氾濫(反乱)で元の民族国家は崩壊してしまっています。2800年の間先祖たちが嘗々として築いてきた日本の国はこの70数年で崩壊に向かっています。この三つの原因はすべて戦後日本人の飽くなき金儲け主義に原因しているのではないのでしょうか？

企業経営者、政治を任せられた議員たち、それに金を稼ぐことだけが幸せに通つると錯覚した日本人。その原因は「神様、仏様、ご先祖様」に対する信仰心を失った戦後の日本人の心が原因しているのです。国民の鏡にならなければならぬ人たちの不祥事の報道がなされない日はありません。議員や公務員の、警察官や学校の先生方の不祥事がこんなに我が国に頻発することは国家崩壊の前兆だと思います。原因は道徳教育がなされていない事につきまます。今慌てて学校での道徳教育が急がれています。今の学校での道徳教育は成果を生むことはありません。

本来、道徳教育とは信仰心の裏付けなしには効果はないのです。それも幼少の頃からの。それがタイトルの「神

さまが見てはるよ」です。人が見ていないところでも悪いことはできない。なぜなら「神様が見ておられる」からです。戦後、連合国国の日本統治で徹底的に神道に対する排斥が行われた結果、家庭内でもこの言葉は聞かれなくなりました。先祖を祀らない、家に神棚もない、そんな家庭で子供をどうして躱けることができるのでしょうか？幼児の頃から悪いこと、いけない事をする子供に「神さまが見ておられるよ」と見えない眼を意識させる習慣が大切で。私も子供の頃は悪戯でしたのでよく母や祖母からは叱られていました。その言葉が「神さまが見たはるよ」でした。少なくとも毎朝一度で良いから神棚に向かい手を合わす習慣をつける事で子供たちは変わってきます。

神や仏の存在を子供の心に植え付けることが出来れば子供が成人しても心の拠り所として幸せに過ごせることが出来ます。子育てに苦労しているお母さん方にも安心感を与えられることは間違いないと思います。神棚など今更という人も住まいの氏神様のお札をタンスの上にも祭って毎朝子供の見ている前で手を合わすだけでも子供の心は変わってきます。亡くなった祖父祖母の写真に手を合わすことでも良いのです。

神道では「人は神様から御霊を頂いてこの世に生まれてきて、亡くなれば御霊は神の元に帰る」と信じられています。ご先祖は神になられて子孫をお守りしてください。先祖の霊の祟りなどと言って脅かす宗教もありますが可愛らしい子孫に祟る先祖などあるわけ無いで

すよね。なお、神道は宗教では無いと私は考えています。では何か？「信仰」なのです。信仰とは、信じ敬う対象を持つことです。その対象は「神さま。仏さま。ご先祖さま」に手を合わす習慣をつけて「神様が見てはるよ」という事を教えるのがより良い家族を、日本国民を育てる上で一番の基本になる言葉なのです。

この組織も派閥には頭を悩ますもの。中村宮司は「神様が見てる。」そして今日、島根の寺本博氏からハガキをいただき、氏は「神様が見てる。」と書かれてありました。確認すると神職。ところが、故鴻池参議院議員は「お天とつさんが見てる」が遺言。「神様派」と「お天とうさん派」。どちらを弊会の合言葉にするか・・・ マスキ

日本壊滅に向かう静かな頹廢が進行している。教師志望者の数が激減しているのを御存知だろうか。原因は荒れる学校とモンスターペアレントだ。

公務員志望者はむしろ増加している。安定した雇用と十分すぎる報酬。こんないい商売はない。公立学校の教師も公務員だ。給料は高い。滅多なことでは減額は減になる心配もない。それでも、こ

んな仕事いやだと大学生は目をそむける。象徴的な出来事が去年の一月に起った都立町田総合高校での暴力事件だ。動画が流れているから、知らない人は見て欲しい。

(https://www.youtube.com/watch?v=EKJr4bbXOM)生徒から罵詈雑言を浴びせられた教師がついに堪忍袋の緒を切らして、見事なストリートパンチで生徒を殴り倒した。

この先生を批判する意見と擁護する意見とが相半ばしてインターネットを賑わわせた。批判する意見は如何も教条的な決まり文句ばかりだった。尾木ママという人は、まず「教師が挑発に乗って体罰なんてダメ！」と一喝。(それにしても、真面目な論議をしようというときに、オネエ言葉はやめて欲しい。そう言つと差別だと言われるのだろうか)そして、「暴力ではなく、話し合いが必要だった」と綺麗事で締めくくる。

また、この学校の信岡校長という人は、「今回の暴行のきっかけは教師にあり、殴られた生徒は校則違反をしていたわけではない」と言つたのだから恐れ入る。マスコミと親と教育委員会を忖度して、自分の保身を図つたに過ぎない。

あれだけ生徒に罵られているのを我慢すべきだったとこの二人は言つたのである。我慢していたら、この先生は、精神的にダメージを受けていたに違いない。教師を非難する人はリベラルが多く、口を開けば人権と言つが、



教師の人権を認めないのか。尾木ママも、もと日教組の教師だったとのこと。

さらに、モンスターペアレントだ。この殴られた生徒の親は、当初、自分の子を庇って、「教師の謝罪は受け入れられない」と開き直っていたが、だんだん世論の風向きが変わって来たと悟って、ダンマリを決め込むようになってしまった。

こんな生徒とこんな親。無理難題を吹っ掛けられてもひたすら頭を下げて颱風の通貨するのを待たなければならぬとは、そんな職業に就こうという者が減ってくるのも異とするに足りない。

教師志望者が減っていると聞いたら、「熱心な人だけが残るのだから、却っていいのではないか」と言う人がいるぞうだ。何をノー天気な、と呆れるばかりだ。

志望者が減れば、教職の競争率が下がる。教師になるのが簡単になるのだから、当然質が落ちる。優秀な学生は他の職業を志望する。これを教育の崩壊と言わずして何と言おう。

町田の事件の少し後に、千葉県野田市教育委員会の次長が、虐待する父親への対応を過った。虐待を訴えた女兒の書いた文(アンケートの回答)を、父親の恫喝に屈して与えてしまった。女兒が死に至ったのは、それが原因のひどい虐待があったからだと推察されている。

これもモンスターペアレントの事案である。次長は、父親が大声を出すので、「恐怖感を覚え精神的にも追い詰

られて影響を深く考えられなかったと言っている。

この次長を非難するのは手易いが、構造的な欠陥を批判する声がほとんど聞かれないのことに私は絶望する。学校として、役所として、対応を考えておかなければならないのだ。

生徒や親の暴力に対して、教育関係者が暴を以て暴に報いるのがいけないというのなら、警察の力を借りるしかあるまい。かつて、日教組は、「教育の場に国家権力を導入してはいけない」と言い募った。今では、日教組の組織率は全盛期の半分を割った。この瀕死の毒蛇の頭を今のうちに潰して置かなければならぬ。

ところが、悲惨な現実とは、非組合員の教師や、文部科学省や、教育委員会(教育委員は今なお日教組上りが多い)が日教組の荒唐無稽な思想を受け継いでしまったことである。ゆとりの教育の寺脇研や、出会い系ハーの前川喜平のような文部科学省幹部が日教組に同調する態度を示していたのはよく知られた事実である。

一般の人々は保守反動とか右翼とか誹謗されるのを恐れて、日教組や朝日新聞のような疑似リベラリズムと対決することを恐れる。しかし、保守派がもっと強い態度に出れば、リベラルは屈する。平成二十九年に、福岡県行橋市の笹山忠則教育長は、拉致問題を扱った「めぐみ」というドキュメンタリードラマを、

た。しかし、市議会に厳しい追及を承けたら、今度は掌を返して、同市の公立の小学校中学校の全クラスで上映させることにした。

リベラルの信念とはかくのごとくに腰砕けである。学校に警察官を導入するように提案すれば、最初は反撥を受けても、結局は正論が通るのではないだろうか。

冒頭の町田総合高校の話に戻るが、あの先生を弁護する人たちも、必ずその前に「暴力は許されないが」と前置きを付ける。暴力が絶対に許されないものなら、教師は糾弾される外はないだろう。いい加減、そういう前置きを付けるというさもしい弁解をするのはやめたらどうだ。

「あの場合、殴ったのは当然だ」とそれだけを言えはいではないか。この偽善だらけの世の中。反吐を催したくなるような現代日本である。

このままで行くと、公立学校はスラムと化し、富裕層は子供を私立に避難させる。その結果は、経済力による教育格差がますます広がるばかりだ。

にして委員会・・・過去、増木が計画したほとんどの作戦に、筆頭賛同者としてご指導を仰ぎ、日本会議副代表、李登輝友の会代表等を歴任された保守界の最重鎮指導者です

その小田村四郎先生の御次男直昌氏が8年前から大阪の公立小学校で橋下徹肝いりの民間人校長をされていました。私はそのことを全く知りませんでした。先日、泉尾北小学校で、シンガーソングライター山口あやきさんを招いてミニコンサートをやったことで、「小田村校長が右翼歌手を呼んだ。」と問題化しました。それは事なきをえたのですが、反橋下派は何が何でも潰したいわけです。そのことで直昌先生の存在を知りました。

とにもかくにも四郎先生の長年のご高配に対し、東京に帰省された折り、御仏前で私から四郎先生に対するお礼を言づけなければならぬと、今日直昌先生にお目にかかりました。「浩然の氣」と言う言葉をご存じでしょうか。真にそれを絵に書いたような先生で、楽しい時間を過ごさせていただいたのですが、昨夜、先生に失礼があつてはいけないと思いついて「泉尾北小 小田村」で検索をしました。すると、次のような文章が出てきました。「あぶない教科書」と言うのは、育鵬社のことなんでしょっやネ?

隠し録音をして、文字おこし。ネットにアップ。また、どの程度かは知りませんが、これをチラシにして配布もしたようです。その熱心さに頭が下がります。

**故小田村四郎先生の御子息ってどんな人**

**NPO 法人百人の会 事務局長 増木重夫**

**R2-2-4**

各位、元拓大総長故小田村四郎先生は御存知ですね。弊百人の会 英霊を被告



さて、皆さん先生の「講演、いかが思われますか。 マスキ  
「小田村校長は日本を愛し、子供たちの将来を憂うる素晴らしい先生だ」

「小田村校長とは、右翼思想を持った危険極まりない輩だー」

子どもたちに渡すなーあぶない教科書大阪の会

<https://blog.goo.ne.jp/text2018/e75e707521ead5c1fd443c47d131765ec>

■第102回「学びの会北摂」歴史講座での講演内容

会場：茨木市福祉文化会館（14：00～17：00）約50人

講師：小田村直昌（大阪市立泉尾北小学校 校長）

演題：学校現場の現状と民間から見ると吉田松陰 楳取素彦と今の教育を考える

〈講演骨子〉

・今の先生は半分ぐらいは子どもものことを考えていない。大学で教職課程を履修し、都道府県の試験を受ければ採用される。大阪市の小学校の倍率は2.5倍、中学校は5倍、保健養護は1.8倍程。大学を卒業してすぐに「先生」と呼ばれるものだから、

「私は先生なんだ」と思っちゃっ。子どもが宿題を忘れると叱るくせに、校長の言うことは聞かない。子どもに言うことと自分たちがやっていることが全く違う。あまりにも常識を知らない。

世の中を知らない。先生の知らなき加減はひどいものだ。

・組合の組織率は低い。日教組は3割位、その他が1割、合わせて4割程度か。今では何の役にも立たないのだが、日教組教育を受けた人が先生になり、保護者もそうである。

・大阪市の橋下市長の時代から国旗国歌教育をしつかりやっているが、校長先生は仕方なくやっている。理解してやっている人は数名である。教育委員会からアンケートが来るが、1回やっただけでやったこととして回答する。子どもたちの方が、オリンピックやサッカーがあるので大分しつかりしてきた。先生がひどい。

・先生はよく休む。時間休をよく採る。公務員は夏季特が1日あり、有休も採る。朝電話して時間休を請求してくる。

・臨海学校と言わずに臨海学習と言いつ。変だと思つが…。授業中でも「あまり注意するとかわいそう」と思っているから、林間でも先生は子どもに注意できない。

・「子どもが好きだから先生になった」と言う人多い。先生は教育者で崇高であり尊敬されるべきだと思う人はいない。

・先生は銀行員の部下に比べるとレベルが低い。文章が書けない。先生なのに勉強していない。成績の所見欄など私に文章を直される。自分でテストを作らない。業者のテストを使う。

・大阪市長がポナースで教員を査定すると言った。学テでは8年前、沖繩が最低だった。しかし秋田などに学び、今では10番かそこらだ。大阪は今も最低。先生が諦めている。在日がいる、部落問題があると言いつする。

・研究授業が盛んだ。子どもたちをモットにして色々な先生を呼んできて、本来は子どもたちのためにするものだが、大阪では自分たちの自己満足のためにする。

・市長はあまり好きではないが、今回はよく言ったと思った。査定は校長がしたらよい。平野区、阿倍野区、大正区は大阪の他よりも更に成績が低い。何で低いのか。先生は諦めている。先生たちは子どもに失礼だ。許せない。

・指導書というアンチョコがある。これを見ながら授業している。アンチョコ教師だ。

・学校のマネジメントでは、私でなければしるし上げて自殺していったと思う程度だ。先生は「共通理解」という言葉を使う。教育委員会も使う。「共通理解」などできる筈がない。「共有」なら分かるが。

・朝礼と言わずに朝会と言いつ。集会とも言いつ。

・教育委員会と相談して、煽る教員には人事異動でいなくなつてもらった。

・よく授業を見に行く。ある子どもを注意したらその子が泣き出した。担任はその子の気持ちの理解できると言いつ、子どもを怒めた。

・トップダウンができない。子どもが上着のシャツをズボンやスカートから出しているから注意した。ある担任はシャツを出していた方が熱中症に罹らないと言いつ。別の担任はクールビズだと言いつ。こいつらは頭がおかしいと思つた。

・子どもを呼ぶとき、クンではなくサンで呼ぶ。子ども同士でもサンで呼ぶ。

・運動会で等旗がなかった。1等からの

等までつけさせた。選抜リレーがなかったのをやらせた。

・戦争が起こつたら男は殺され女は凌辱されることを50の年で教えなければいけない。

・拳手でグー、チョキ、一本指の形があったがやめさせた。拳手は真つすぐ手を挙げるものだ。

・大阪は「人間」（小田村が黒板に書いたとおり）とかいうおかしい教科書があつて、道徳を全くやっていないかつた。人権だとか何とか言つて…。だから今、親が子どもを殺したりする。道徳は安倍政権だからできたのではな

いか。

・うちの学校では、2学期から毎日子どもに国旗の掲揚と降納をやらせる。

・卒業式で皆勤賞を出した。

・修学旅行は280校のうち230校が伊勢へ行くのに、スペイン村などへ行つて伊勢神宮を素通りする学校が多い。うちでは参拝させている。府下では広島が多い。大久野島へ行って訳の分からない資料館を子どもに見せている学校がある。

■小田村直昌校長は、自分のことを吉田松陰の末裔だと紹介していました

が、実は今は故人となった小田村四郎（日本会議副会長、日本教育再生機構の顧問、日本戦略研究フォーラム評議員、「日本の建国を祝つ会」会長などを歴任）の次男でもありました。

講演内容を読むと小田村校長の思想がまさしく安倍政権、日本会議と同一であることがよくわかります。

# 今日の新聞報道・ニュース等

## 交際女性の2歳娘に 暴行 34歳男を逮捕

2/1(土) DHC NEWS24

交際女性の2歳の娘に暴行を加えたとして、34歳の男が警視庁に逮捕された。女の子は現在、意識不明の重体となっている。捜査関係者によると、落合光太容疑者は先月2日から3日頃、東京・荒川区のマンションで、交際女性の娘で2歳の女の子を投げ飛ばすなどした疑いが持たれている。女の子は先月5日、母親が通報して搬送されたが、病院から警視庁に「虐待の疑いがある」と通報があったという。

同じマンションの住民「(先月3日くらいに)声がしたり、争ってるのかなんか、なんかがたがた大きな音がする」「救急車が1台と大型の消防車が1台来て、これはただごとではないと思うた」

女の子は急性硬膜下血腫などで、現在も意識不明の重体。落合容疑者は女の子が搬送された先月5日も交際女性の部屋を訪れていて、警視庁はこの日にも暴行を加えたとみて調べている。

マ・タ・カ・ヨ・！ 腹立つな！ この時母親は何をしていんだ。日ごろの

様子から、この男が娘に何かしつづなことは想像がついたはず。このイロボケ女！ この男の両親、小中学校の担任・全員カメラの前で謝れ。私たちの教育が間違っていました。

また同じことを繰り返すが、この男、生まれてこの方「責任」「義務」と言う言葉を聞いたことがないのだろう。

国旗、国歌、教科書。教育の課題は山ほどあるが、こういうバカ男・バカ女を作らないことが、教育の最大の喫緊の課題だと提起したい。 マスキ

## 一丸となって、この 病気をね、拡大を防 ごうという時に 130(木) デイリースポーツ

安藤優子 検査拒否の帰国者2人に「協力していただけなかったものか」

安藤優子キャスターが30日、フジテレビ系「直撃LIVE グッディー」に出演。新型コロナウイルスによる肺炎が発生した中国・武漢から29日にチャーター便で帰国した帰国者の中で、医療機関の検査を拒否した2人について、あえ

て言及した。

安藤は「いろんな事情はありだったとは思いますが」と前置きした上で、「一丸となって、この病気をね、拡大を防ごうという時に、もうちょっと協力していただけなかったものなのか、と思います」と強い懸念を示した。

30日も武漢から2100人が帰国。今回は、全員が検査を受け、検査結果が出るまでは、病院で待機するという方針に変わったが、安藤は「これ、当たり前じゃないですか?!」と訴えていた。

何でもかんでも「教育」って言うなと言われそうだが、こういう日本人を作ったらだめだ。徴兵をして特攻に志願しろ。という話ではないでしょ。左系に「当たり前」と言われたこの二人、もうおしまいじゃないか。

二人は人権を拡大解釈している。人権云々言う前に、単なる身勝手。我まま。親は、学校はどんな教育をしてきたのだろう。一人はニュースで騒ぎが大きくなり、自分たちのやったことがわかり、びっくりしたのだろう、慌てて名乗り出たぞうだが。

百人の会は学校で国旗国歌をきちっとやろうと言う主旨で設立された。それを忘れてはいないが、自分さえ良ければいいと言う連中が蔓延する今日この頃、相手を思いやる心、心の教育がより大事なような気さえしてきた。

公益のためには、人権は制限されることがある。いや、皆のためなら我まま言うたら、アカンで。教育は一つ間違つと大変なことになってしまう。 マスキ

## 映画「めぐみへの誓い」 横田めぐみさんと両親描いた 劇を映画化 父滋さんが希望

2/13(木) 18:52 朝日

北朝鮮に拉致された横田めぐみさんと、娘を奪われた両親の苦悩を描いた演劇「めぐみへの誓い」の映画化が決まり、出演俳優らが13日、国会内で制作発表の記者会見に臨んだ。

監督は劇団「夜想会」主宰で、劇の演出を手がけてきた野伏翔さん(67)。劇は2010年初演で、14年からは政府拉致問題対策本部主催となり、全国36カ所で行演されてきた。拉致問題への関心を深めようと映画化が企画され、クラウドファンディングなどで約4850万円が集まったようだ。

野伏さんは、大韓航空機爆破事件実行犯の金賢姫(キムヒョンヒ)元死刑囚らの本を参考に脚本を書いた。めぐみさんが北朝鮮で過ごした日々として、金元死刑囚の日本語教育係を務めさせられた田口八重子さんの生活などの物語をつくった。

野伏さんによると、劇を見て「映画にしたい」と最初に望んだのは、めぐみさんの父滋さん(87)だったという。劇でも映画でも滋さん役を務める原田大二郎さんは「いつも滋さんと一緒にいる気持ちで演じています」と語った。

## 杉田謙一の歴史研究室

「草莽の記」より

<https://blazarakuten.co.jp/seimeisugita>

## 公地公民の価値観

2020.01.12

我が国の氏姓制度の時代には氏の力争い勢力争いにより広大な土地を得てより多くの民を従えていく競争がなされた。その頂点に立ったのが蘇我一族。国家理念の体现者の天皇の存在をも見下そうとする集団になっていた。その弊害を正し、公地公民の大原則を打

ち立てたのが中大兄皇子と中臣鎌足。西暦645年、大化の改新であります。土地人民の私有を許さず、土地も口分田としてほとんどの男女に分け与えた。女性は男性の3分の2の土地とはいえ口分田を持つこともでき、ともすれば他国のような奴隷制度も存立可能ではあったが我が国は身分固定の奴隷を置かず、基本はすべての国民に等しく土地を分けて生産をなさしめたまさに画期的な政策であった。法整備も701年、大宝律令として整備されていく。しかし、その精神はいつまでもつづかない。

700年代半ばになると新たに土地

を開墾し口分田を広げていくがなかなか確保できなくなった段階から開墾地を開墾者に払い下げて税だけを確保するシステムになる。これから寺社や大貴族が土地所有をなし、特権階級化した自社大貴族は不輸不入の権利を手にして荘園化に入る。平安時代には鎌足の子孫藤原氏が政治の中核を占め、寄進を受けて大荘園を手にして権勢を誇る。

この世をばわがよと思つ望月の欠けたることのなしと思えば。と。さらに微子の台頭が起き、「平氏にあらずんば人にあらず」の傲慢の時代を経て「御恩と奉公」の鎌倉・室町の時代を迎える。

武士の時代には守護が徴税権を握り大名化し戦国大名になれば領土の分捕り合戦をなす。しかし、天下統一となって太閤検地がなされ、土地の測量も進む。次に政権を手にした徳川幕府は大名の生殺与奪権を握り天領を定め、他の地を大名の知行地として独自性を付与。大名は土地を神君家康公からの拝領の土地と意識する。改易などの領地替えが収まって以降は領土の土地所有意識も固定化。村は村方三役や五人組制度により安定、豪農の管理として長く引き継がれた。この時から人々は先祖伝来の土地意識を持ったのではなからうか。

そこに幕末維新の激動が走る。大名の先祖からいただいた土地意識も戊辰戦争の激動の中、大いに揺るぐことになり、ついに明治を迎えて土地人民を朝廷に

返すとの大英断がなされた。土地人民を大名の手から朝廷にお返しするという版籍奉還がなされたのだ。確かにこれをなした西郷隆盛は大英断大改革の人。まさに御一新。しかしこれは朝廷の継承という国体があつてこそ成しえたものであろうと私は思う。

土地人民は本来天下のものとする意識はやはり朝廷の歴史、大化の改新にあつたのだからこゝろやはりおもう。ここに立ち戻るのだと。

日本の支柱は神話さらに神武天皇から始まる皇室の歴史的存在にあり、時に太政大臣・摂関政治・院政と政権を担う役職こそ違え、あくまで権力者は天皇による委託を得たもの。征夷大將軍とて同様。当然内閣も。天皇存在が政権にどれほど意識されていたかは為政者によろうが、おおもこの権威は天皇存在からきていることは日本のいかなる為政者として疑いぬ事実であります。その意識の大本は覇権を持つ権力者蘇我氏を廃した大化の改新にあるのでは。

これら長き歴史を通じ、日本人は独特の汎神論を受け継いできた。海の幸山の幸を神々に差し出し豊作を感謝する祭、山に入れば山の神に捧げものをなして実りを祈る。神々が郷土を守り下さってきたことに対して真摯な感謝の祭りを継承してきた。村には汚れを入り込ませない森を残し中核に祭祀の拠点神社を置きそこに人々が集つ。単なる森ではなく、杜となしてきた。神は目に見えず像すらないが、その聖なるお姿は祭祀の王、天皇の勅語を拝してお知り申し上げてきた。庶民はその高貴さを称え、ひな祭

りのお内裏様お雛様を身近に置き尊んできた。神社での祭りやお伊勢さん参りなど、多くの人々が聖地参拝を大きな喜びをもってなしてきた。そしてその敬意の中核にて日々にたみの幸を祈られる天皇が見える。むろん国学者や崎門学、新党学者などの学問の成果もあるでしょうが。今日には端子様が見えるこの強固な信仰が、人々を支えてきた。

そして我が国最大の危機が大東亜の敗戦。占領統治。敗戦の憂き目を見れば、並みの君主では廃位が当然とされる。韓国しかり、廃帝をなしてしまだあえていではないか。

占領軍の農地解放により先祖伝来の土地意識は壊されたが、今一度土地を耕して苦難を乗り越えようと必死の時を過ごした。田畑も均等相続となりまた一気に近代化が進み農村には売却の波が押し寄せてしまった。公共の土地にこみを捨てない、サッカーやラグビーの応援後にこみを持ち帰る。駅のポランテア清掃、学校での生徒の手による清掃、いや津波で破壊された各地のポランテア応援人数の多さなど。農地は減ってしまったが、公共をきれいに保つ気持ちに受け継がれている。武道場へ足を踏み入れる際の礼儀など。その意識が漸次減ってきたといわれもするが今回のご即位のお姿を見て多くの国民は心を洗われたと思う。令和2年、オリンピックに世界から人が集まる。本来の日本人らしさを取り戻し発揮する好機であると信じます。

# 連合艦隊各艦の予定・活動報告

## NPO法人百人の会

●第40(通算107)回定期勉強会

◇令和2年2月29日 13:30

◇サムティフエイム新大阪 4F-C

◎公開勉強会

講師 川内時男先生(元徳島県立中

学校長) 演題 教育直言 他

【勉強会】2〜3か月毎に開かれ、教

育時事問題を議論します。勉強会は

理事の方はもちろんのこと一般のこ

出席も大歓迎です。勉強会終了後、

定期理事会(10分程度)

●第39回定期勉強会議事録

◇日時 R1-12-21 14:30

◇サムティフエイム新大阪 4F

【主なテーマ】

・今年1年の総括。主に、子供を犠

牲にした事件。教員の質の劣化等

・1/1/22東京懇談会報告

・神戸事件(東須磨小学校教師間暴

行)のその後

・自衛隊支援の協力

・ヘヴニース東京公演報告

●3/19東京懇談会

・石井希尚(ヘヴニース座長)氏を囲

んで『教育再生はヘヴニースの応援』

◇R2-3-19 17:30(台湾裁判終了後)

◇ルノアール八重洲北会議室を予定。

会場予約のため、申込制となります(締

切3/10)。公演終了後お話し(話し

せませんが、今日はのんびりです。

## 台湾人日本国籍確認訴訟

・第1回口頭弁論 東京地裁103号

R2-3-19 16:00

※抽選になった場合は15:20集合

・裁判終了後、報告集会(弁護士会館)

## 編集後記

2/15(土)、スポニチに下記のような記事がありました。

そもそも論として、「世界に一つだけの花」程度の歌を教科書に載せることそのものがいかなるものだろうか。決して「世界に一つだけの花」がよくない歌だと言っているのではない。娯楽としてはまあまあいいと思う。「世界に一つ」が左派的だと言う人もいるが、深く考えなかつたら、いい歌だ。しかし、娯楽としていい歌と教科書掲載は違うだろう。学校の教科書には「教養の向上」という目的もある。あるならばもっと他に載せべき歌があるのでは。

元衆院議員でタレントの東国原英夫(62)が15日、歌手・榎原敬之(本名・範之)容疑者(50)が覚醒剤、危険ドラッグ所持の疑いで逮捕、送検された件に言及し、芸能界での薬物騒動についても議論になる「作品と犯罪は別」論争。榎原容疑者が作詞・作曲を手掛けた「世

界に一つだけの花」は教科書にも使用される。

これについて、東国原は「学校教育は規定があるんです。教育上ふさわしくない、そういうのは外されるんです」とキツパリ。すでに2月で4月からの新学期まで2カ月を切っている状態で、新学期に採用される教科書は「決まっています」とし、「今回はそのままいくか、(使用を)中止にするのか。文科省はカットすると思う。作品周辺、まつわる背景も教育上ふさわしいものだ」という規定がある」と主張した。

## 活動資金ご協力のお願

郵便振替 00980-8-245647 MASUKI情報デスク  
おひかり銀行 099-0245647 MASUKI情報デスク  
三菱UFJ銀行 口座番号 0044349 普通 増本豊夫

まずは、平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。マスキ情報デスクは後記団体に「縁のあった人の名簿を管理し、『M情報活動報告』を毎月全国約5千(目標1万)部(議員4割)発送しています。私どもは子供達に誇りある国を残すため必死で戦っています。ところが問題は活動資金。何卒ご協力をよろしく。※このM情報は特に「購読料」は設定していません。カンパをよろしくお願いたします。

元大阪市長で弁護士の橋下徹氏(50)が「作った人はそこでも、作品自体はふさわしくないかって言われたらそうじゃない。そういうことがあったとしてもこういう作品ができるんだよ!」っていうことも、1つの教育ないんじゃないの?」とする。東国原は「99年に犯罪を犯して、復帰して、これは2003年」と榎原容疑者が再犯であることを指摘。「復帰しました!更生しました!で出したんです。出したのにかかわらず…」とあされた。

## 原稿・回封資料の募集、メール配信について

本紙に掲載ご希望の論文、情報等ごんごん表記事務所までお送りください。また、弊紙は郵メールで発送し、重さ制限は50gです。まだ余裕がございませんので、資料等の回封が可能です。ご相談ください。

『M情報』では、日々、全国各地の間から情報が送られてきます。それをメールで転送配信します。内容はどこよりも詳しく多種多様。試しに一度受信してみませんか。要領は巻頭のアドレスに「メール希望」と空メールを(発信名義「NPO法人百人の会」)。